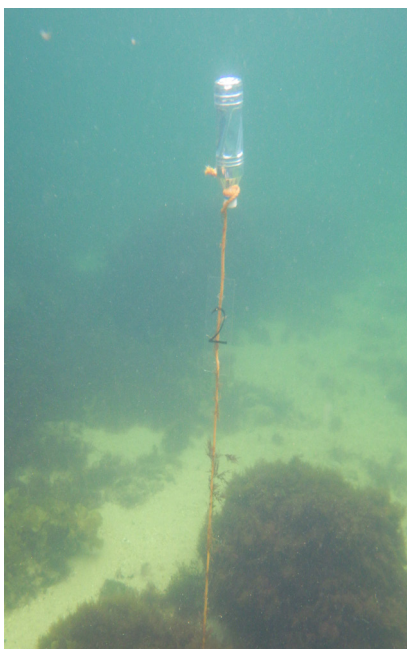
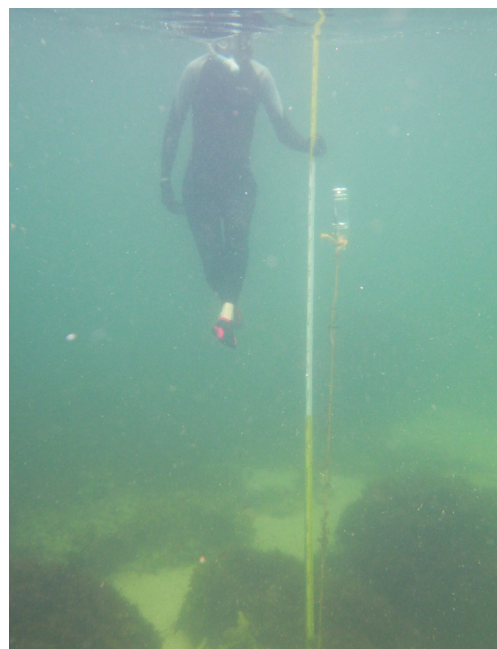




石材のナンバープレート



石材の確認状況



クリアカヤックによる石材確認



クリアカヤックによる石材確認2

2. 平板測量と個別石材の実測〔PL 3・4〕

当地は八人石丁場から谷状地形を下った先にひろがる湾状の海岸である。自然災害等の影響もあり、海岸の一面が石材に覆われてしまっているが、中には矢穴列のある巨大な種石や矢こぎにより平坦面をつくる石材など、大きくその位置が変動していない石材もいくつか窺える。陸上部分から波打ち際においては、角石として加工された石材や刻印の残るものも含まれており、それら主要な石材や基準となる石材について平板測量を行った。距離測定は調査途中からレーザー距離計を導入した。海中に見られる角石や矢穴のある加工石材は、個別に実測した石材の位置関係を明確にするため、基準となる2点を平板に記録し、石材の長軸の方向と分布状況の把握に努めた。

平板測量の結果、角石などの加工石材は海岸の中央付近に集中する。一方、矢穴列の見える巨石等は海岸の周縁部に点在しており、石材の分布に片寄りが見られることが判明した。

これは海中の石材についても同様であり、谷地形の延長上にまとまる傾向がみられた。

個別の石材については、海岸部から海中にかけて分布する加工石材を計測した。No. 1・25は矢こぎのある石である。規格石材を切り出すために石の表面を平坦にし、その上で矢穴列を設けて分割する行程がよくわかる。2は小口面に「#」刻印が残る石材である。3～10は直方体に成形された規格石材である。いずれも長辺が2 mを超える長大なもので、小口面は0.9～1 m前後を測る。特に8は長辺3 m、短辺1.2 m、高さ0.5 m以上の規模をもつ大型品である。11の種石にも下部に矢穴列が見られ、転石と考えられる。また、これらの石材と同様の規格石材が海中にも存在する。12・20は長辺2.5 m前後、13～15・18・19・21は長辺2.0 m前後、16・17は長辺1.3 m前後の直方体に規格されている。その他、ホゾ穴を2つつもつ石材もあった。一方、陸上には22の「十」刻印や23の「丁」刻印などの黒田家のものとされる刻印をもつ石材も確認できた。



個別石材の計測



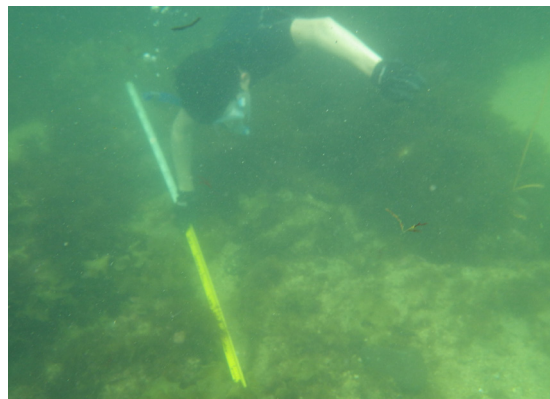
平板による測量



個別石材の計測 2



水中石材の計測



水中石材の計測 2